

**令和7年度 第2回
門真市教育委員会点検・評価検討委員会 会議概要**

開催日時	令和7年8月5日（火）14：00～15：30
開催場所	門真市役所 本館4階 委員会室
出席者	野田文子委員、新谷龍太朗委員 (委員長は野田文子委員、副委員長は新谷龍太朗委員)
事務局	水野教育部長、峯松教育部教育監、大倉教育部次長、高山教育部総括参事、十河教育総務課長、渡辺教育企画課長、太田学校教育課長、向井学校教育課参事、岡田学校教育課参事、永田教育総務課長補佐、姫路教育総務課係員、河野教育総務課係員
傍聴者	なし
議事	

野田委員長

定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第2回門真市教育委員会点検・評価検討委員会を開催いたします。

本日は、ご多忙にもかかわりませず、ご出席いただき、誠にありがとうございます。それでは、本日の出席者数の報告を事務局からお願ひします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

それでは、出席者の報告をさせていただきます。本日、全委員の方にご出席いただいております。

門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条第2項の規定にあります過半数の出席の要件を、満たしておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

野田委員長

ありがとうございます。では続いて、本日の進め方と資料について、事務局より説明をお願いします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

本日の進め方ですが、点検・評価検討委員の皆様よりご指摘をいただき、修正いたしました部分につきまして、7つございます。「施策の方向」ごとに要点を各所属から説明させていただきます。

その後、事務局より点検・評価検討委員の意見・助言を読み上げさせていただきますので、委員の皆様より新たに補足、訂正、追加等がございましたらご意見・ご助言をいただきたいと思います。

そして、報告書のすべての項目が終わりましたら、点検・評価検討委員の皆様からいただいております「全体についての意見」を事務局より読み上げいたしますので、こちらにつきましても補足、訂正、追加等をお願いしたいと思います。

報告書の後半部分 101 ページからは、資料編としまして、それぞれの資料を添付させていただいております。103 ページには、「門真市開発的生徒指導について」、107 ページ、109 ページには、「門真市版授業スタンダード」、「門真市版家庭学習の手引き」、111 ページには、「門真市版授業づくりベーシック」、113 ページには、「門真市学びのススメ」、そして 119 ページからは、「用語集」を添付させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

野田委員長

ありがとうございます。ここまで、進行方法や資料についていかがでしょうか。それでは、施策の方向 1、確かな学力の育成について修正箇所のご説明をお願いします。

岡田学校教育課参事

学校教育課教育センター長の岡田です。 (1)学習指導要領の確実な実施について、修正変更等のご説明をさせていただきます。

この項目ですが、大きく 3 点ご指摘・ご助言をいただいております。まず、1 点目、5 ページの現状と課題及び 6 ページの今後の方向性をご覧ください。ご指摘いただいた I C T 活用検討会の抜けていた 3 行の文言を両方に追記しております。

次に 2 点目です。8 ページの活動・成果概要①をご覧ください。こちらは、めざす指標が伸びているので、もう少し考えられる理由や背景を記入していただきたいというご意見をいただきました。市が行っている先進校視察や小中一貫教育の取組、縦と横の連携について追記させていただいております。

最後に 3 点目、②社会に開かれた教育課程の推進についてです。こちらは、文章がわかりにくいとご指摘いただいたところを訂正させていただいております。以上です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

続いて、(2)学力向上に向けた基盤づくりのご説明をお願いいたします。

岡田学校教育課参事

続きまして、(2)学力向上に向けた基盤づくりについてご説明させていただきます。こちらは、大きく 4 点ございます。

まず、1点目が12ページ、①門真市学力向上アクションプランの推進の活動指標の「各校における学力向上アクションプラン進捗確認表の作成」のあとが【維持】になっておりましたが、こちらを【終了】に訂正させていただいております。

2点目が、13ページの活動・成果概要の①になります。門真市学力向上アクションプランの推進ということで、こちらも成果指標がしっかりと向上しているので具体的な取組を記載してくださいということでしたので、例えば、市が作っている伴走チームで授業づくりや研修のデザインサポートなど、具体的に学校でどういう伴走をしているのかというところを記載させていただきました。

3点目が、②各種学力調査の実施・分析及び活用についてですが、こちらも例えば、指標の統一や市や学校がどのように分析をして、どのように活かしているのかというところを簡単にご記入くださいというご意見をいただいておりますので、そこについて追記させていただきました。

最後に4点目、③質の高い授業づくりについてです。こちらは、指導主事や市が実際、どのように研修等でサポートや取り組みを行っているのか、先ほども申し上げましたように、伴走チームが授業づくりや研修デザインの伴走サポートを各校にしていることや市主催の研修においても、なるべく講義型から対話型に可能な限り変更をしながら、先生たちが対応し学びを深めていけるような工夫をしているというところを変更させていただきました。

続いて、(3) グローバル化に対応するための取組の推進ですが、こちらは大きく2点修正いたしました。17ページの活動・成果概要の③世界に关心を持つ機会づくりや海外の子どもたちとの交流の機会づくりの項目において、万博についての記載をしてくださいとご指摘をいただきましたので、令和6年度については、万博に向けての各国の世界に关心を持つ機会づくりを総合で取り組んだ内容を記入させていただきました。同様に18ページの③ですが、こちらにも今年度、万博においてどのような取り組みを進めるのかという点を追記させていただきました。以上です。

太田学校教育課長

それでは、(4) 小中一貫教育の推進につきまして、学校教育課太田がお話をさせていただきます。21ページをご覧ください。21ページに2点ございます。令和6年度活動・成果概要の③就学前教育からの円滑な接続におきまして、どのような交流をしたのかという点について、「遊びを通して園児と児童の交流を行ったり小学校の見学をしたりと」と追記をさせていただいております。

そして、令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標につきまして、こちらの③就学前教育からの円滑な接続につきましても、円滑な接続にかかる架け橋期

のカリキュラムや児童と園児の交流についてというところでボリュームを出して追記をさせていただいております。以上です。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、97 ページをご覧ください。施策の方向 1、確かな学力の育成について、前回点検評価検討委員の皆様よりいただきましたご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

まず、(1)学習指導要領の確実な実施について。1 点目が「指導計画の作成に当たって、地域等の外部の資源を活用しながら効果的に組み合わせていると思う教員の割合」について、小・中の数値に格差があり、また、年度毎にデータの変動が大きく見られます。安定した環境状態の確保を目指して、社会に開かれた教育課程への取り組みをさらに推進していただきたい。2 点目が、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う児童生徒の割合」について、小・中ともに数値が伸びています。小・中のつながりや横のつながりを意識することで、子どもたちの主体性が育つと考えられるため、引き続き意識していただきたい。

次に、(2) 学力向上に向けた基盤づくりについて。全国学力状況調査において、少しずつですが着実に上昇傾向にあり、研修などの成果が見受けられます。引き続き、各種学力調査の実施・分析を行い、授業づくりの見直しや検証に繋げていただきたい。

次に、(3) グローバル化に対応するための取組の推進について。インバウンドの増加により、オンラインを使わずとも身近に英会話に触れられる機会が増えてきていることから、探究学習等を通して、英会話を体験できる場の設定を増やしていただきたい。

最後に、(4) 小中一貫教育の推進について。小中一貫教育を意識した小・小連携の推進について、中学校区ごとの共通理解を進める研修の実施は有効だと考えます。人事交流など、研修以外に小中学校の交流を深めるような活動の検討に期待します。以上です。ご意見をお願いいたします。

野田委員長

それでは、私の方から意見を述べさせていただきます。施策 1 は、適切に修正・追加・記述をしていただいてわかりやすくなっています。ただ、1 カ所だけ直っていないところがありました。10 ページの④ I C T 機器の活用の 4 行目の最後、「効果的に」のままになっていますが、「効果的な」です。「てにをは」の修正が今年はほとんどなかったのですがここだけが残っています。

それでは続きまして、まとめのほうですがもう少しシンプルにしたいと思い

ますのでよろしくお願ひいたします。

まず、(1) の1点目ですが、アンケートの項目をそのまま書いているのをやめて、「社会に開かれた教育課程については」としていただくとそれだけでわかると思います。社会に開かれた教育課程については、小・中「学校」を入れてください。小・中学校の数値に、「格差」ではなく「差」です。「差があり」にしてください。あとはそのままで、次の行にいって「安定した環境状態」ではなく、「安定した学習環境」の確保を目指して、社会に開かれた教育課程への取り組みをさらに推進してください。今年は、全部「いただきたい。」にしていただいていますが、「いただきたい。」をシンプルに「してください。」にしてください。

2点目も、最初の括弧の部分を消して、「主体的な学びに関する調査では」にしていただいたらいいと思います。主体的な学びに関する調査では、小・中「学校」を入れていただいて、ともに数値が伸びています。小・中学校のつながりや横のつながりを意識することで、子どもたちの主体性「が」を、「の」にしていただいて、主体性の育ちに有効であったと考えられます。とはっきりと言い切っておきたいと思います。「有効であったと考えられます。」と入れてください。

(2)学力向上に向けた基礎づくりの最後のほうの、「授業づくりの見直しや検証」ではなく「見直しや改善」です。そして、「繋げていただきたい。」を「繋げてください。」に変えてください。

(3)グローバル化に対応するための取組は、「インバウンドの増加により」はいらないと思いますので取っていただいて、オンラインを使わずとも、身近に英会話に「触れられる」という言葉が入っているので、「触れる」にしてください。

「られ」を消してください。「触れることができる」になると長くなるので、「触れる機会が増えてきています。」で切って、そのあとの「探究学習等を通して」は、方法までこだわって指定していますので、「探究学習等を通して」は消して、「引き続き」にして、「英会話の体験的な学習の場を設定してください。」というふうにしてください。もう一度言います。「引き続き、英会話の体験的な学習の場の設定を工夫してください。」

(4)小中一貫教育の推進は、2行目の「有効だと考えます。」を「有効であったと言えます。」にして、よりはっきり言い切ってください。そして、「人事交流など研修以外に」を消して、「小・中学校」の中点が抜けているので入れていただいて「小・中学校の主体的な交流を深める今後の活動に期待します。」に変えてください。よろしいでしょうか。私からは以上です。

新谷副委員長

点検・評価の内容自体はこのままでいいと思いますが、97ページの(2)学力向上に向けた基盤づくりについて、8月1日の新聞で、経年変化でかなり学力

低下について言わわれているので、次のような付け足しがあったほうがいいと思いますので申し上げます。「近年課題となっている知識技能の定着、スマホ等の影響に起因する勉強時間減少への手立て、理数科目のジェンダー差縮小にも取り組んでいただきたい。」もう一度申し上げます。「近年、課題となっている知識技能の定着、スマホ等の影響に起因する勉強時間減少への手立て、理数科目のジェンダー差縮小にも取り組んでいただきたい。」以上です。

野田委員長

それでは、施策の方向2、すべての子どもへの学習の支援についてお願ひします。

太田学校教育課長

学校教育課の太田でございます。施策の方向2、(1)障がいのある子どもの自立支援につきましては、修正点はございません。

(2)不登校児童生徒への支援につきまして、29ページをご覧ください。めざす指標の不登校率について、ご指摘をいただきましたように令和4年の実績と令和7年の目標の数値に誤りがございましたので正しく修正させていただいております。次に、31ページをご覧ください。令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標につきまして、担任の多忙により年度当初の個別指導の難しさに対応する初期対応の手立てとして、スクールソーシャルワーカーによる各校への巡回を行うことで、不登校における初期対応についても支援を充実させていく旨、追記しております。

岡田学校教育課参事

(3)様々な状況下における学習機会の確保についてですが、こちらは大きく1点修正しております。34ページの課題と今後の目標の②緊急時における学びの確保で、市の方針を具体化するにはICTの活用は必須だというご意見を前回いただいております。ICTの活用について、例えばどういう場で発信・共有するのかということも記載してくださいとご助言をいただいておりましたので、そこを追記させていただきました。また、緊急時においての活用について、今も研修等を行っているのですが、どこで行っているのか実践交流会の実施や実践事例の発信をしていますというところを、最後に追記させていただいております。以上です。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、97ページをご覧ください。施策の方向2、すべての子どもへの学

習の支援についてです。語尾が「いただきたい。」となっておりますが一度そのまま読み上げさせていただきます。

(1) 障がいのある子どもの自立支援について、1点目、通級指導を必要とする児童生徒数が増加している一方で、通級指導担当教員数についても大きく増加しているため、実態に即した対応ができているといえます。2点目、就学相談・支援の充実について、申し込み等へのアクセスの簡便化を図ることにより、利便性の向上が図られていると見受けられます。非常に有効であると感じるため、引き続き取り組んでいただきたい。

(2) 不登校児童生徒への支援について、1点目、全国平均に比べ、小中学校ともに不登校率が高くなっています。生徒への初動指導の体制づくりについて、管理職を含め、検討を重ねていただきたい。2点目、校内教育支援ルームが各学校に設置されており、子どもたちが安心して学ぶことができる環境づくりができます。引き続き、様々な形態・機会で学べる環境づくりに努めていただきたい。

(3) 様々な状況下における学習機会の確保について、1点目、1人1台端末の活用が定着してきているため、ICT教育と体験学習の融合を推進していただきたい。2点目、オンラインによる学習環境は全校で整備されているため、今後は、個別最適な学習や家庭学習で活かされることを期待します。以上です。

野田委員長

本文については、修正ありがとうございます。わかりやすくなりました。

続きまして、最後の意見・助言97ページの(1)障害のある子どもの自立支援が、わかりにくい文章になっていますので直します。「通級指導を必要とする児童生徒の増加を受け」、「増加している一方で」にすると、なにか逆説的になってしまいますので、「通級指導を必要とする児童生徒数の増加を受け」、次に、「通級指導担当教員数の増加など、実態に即した積極的な対応をされています。」

2つ目が、「就学相談・支援の充実では、申し込みへのアクセスの簡便化を図ることにより、利便性の向上が図られています。」ここまでで、終わりにしてください。

そして、(2)不登校児童生徒への支援については、1つ目、全国平均に比べ、小中学校の小の後に中点を入れてください。小・中学校ともに不登校率が高くなっています。ここに「引き続き」を入れていただき、引き続き生徒への初動指導の体制づくりの強化に努めてください。そのあとは、消してください。2つ目は特にありません。

(3)の2つ目、「オンラインによる学習環境は全校で整備されています。」ここも、「います。」で切ってください。引き続き、「個別最適な」はやめて、「引き

続き、個別学習や家庭学習での活用に期待します。」言葉が不適切な使い方になっていますのでよろしくお願ひいたします。私からは以上です。

新谷副委員長

特に、付け足しはございません。

野田委員長

それでは続きまして施策の方向3、豊かでたくましい人間性の育みについてよろしくお願ひいたします。

太田学校教育課長

学校教育課の太田でございます。（1）自分の将来を描ける力の育成についてです。38ページの令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標の①キャリア教育の推進について、令和7年度全校に設置「した」という過去形であったものを「する」というふうに修正しております。修正点は以上でございます。

2つ目は、（2）豊かな心を育む教育の推進について、42ページをご覧ください。今後は、個々の学校の授業づくりを適宜進めていくように、また言い切りをするようにとご指摘をいただきましたので、令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標の①道徳教育の充実につきまして、各校の道徳教育推進教師を中心となり、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動をふました「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けた研究の推進を図っていく。また、今後はより各校の授業づくりへの伴走支援を進め、さらなる道徳教育の充実と成果指標の向上を図ってまいりという点、③自尊感情の育成につきましては、後半、児童生徒の個々の頑張りに対して肯定的な声かけや評価を行うことで、一人ひとりの自己肯定感、自己有用感の向上を図る旨追記をさせていただいております。

続きまして、（3）開発的生徒指導の推進については、修正はございません。

（4）いじめ防止への取組の推進でございます。46ページ、下の令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標についてご覧いただきたいと思います。SNSやネットいじめについて、具体的に記載するようにとご指示をいただいておりましたので、ネットいじめを含む様々なじめの事象について事例検討していくこと。そして、「インターネット・スマートフォン4つの約束」を関係機関と連携して作成・周知することを追記させていただいております。

次に、（5）人権尊重の教育の推進につきましては、修正はございません。

（6）読書活動の推進でございます。52ページをご覧ください。主な取組における①学校図書館の充実の活動指標になっている、学校図書館の蔵書の充足

率ですが、令和7年度の目標を現実的な数値にとおっしゃっていただきましたが、やはり求められている100パーセントを目指すものと捉え、ここは当初の目標の100パーセントのままにさせていただき、できる限りの取組を進めてまいりたいと考えております。

令和6年度活動・成果概要の中段になりますが、指標である本を読むことは楽しいと思うに運動する取組につきまして、本を読むことが楽しいと思えるような、例えば、読書習慣を設けて本に親しむことができるといった推進ができる活動や本を利用して自分の好きなことに関する調べ学習ができるような取組、そういうことが各校で見られたという旨を追記させていただいております。

次に53ページをご覧ください。令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標について、どのようにすれば図書館に足が向くのかというところにつきまして、図書館の活用を学校の教育活動全体で推進することはもちろん、テーマ別読書コーナーの設置やディスプレイやポップによる利用しやすい図書館環境の改善を進める旨を追記しております。以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは98ページをご覧ください。施策の方向3、豊かでたくましい人間性の育みについてご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

（1）自分の将来を描ける力の育成について。「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」は順調に増えてきていますが、中学校においては伸び率が低いため、コミュニティスクールを活用した地域連携について、特に意識的に取り組んでいただきたい。

（2）豊かな心を育む教育の推進について。1点目、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合」について数値が上がっています。このような取組をさらに充実させるための方針について、検討していただきたい。2点目、「考え・議論する道徳」の研究について、各学校での個々の授業づくりに生かされるよう、さらに展開していただきたい。

（3）開発的生徒指導の推進について。めざす指標や成果指標の数値より、自尊感情の高まりや、先生から大切にされていると思う児童生徒の割合の増加が見られます。これらの増加は、暴力行為の予防に役立っていると考えられますが、一方で、暴力行為の件数は一昨年度から増加を続けているため、開発的生徒指導の積極的な見直しと新たな展開に期待します。

（4）いじめ防止への取組の推進について。いじめの積極的認知に努め、未然防止やいじめ重大事態への防止へと繋げていただきたい。

(5) 人権尊重の教育の推進について。1点目、性的マイノリティにあたる子どもたちの把握方法を検討し、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりに繋げていただきたい。2点目、多文化共生教育の推進については、ＩＣＴ機器の活用のみならず、身近な人々の多様性にも目を向けていただきたい。

最後、(6) 読書活動の推進について。1点目、「本を読むことは楽しいと思う児童の割合」が年々低下しています。ＳＮＳやインターネットの影響が考えられるため、他校での良い取組を共有するなど、手立てを検討していただきたい。2点目、読書の楽しさや有効性を理解している児童生徒は一定数いるため、読書の習慣をつける工夫や活用しやすい図書館の工夫などに積極的に取り組んでいただきたい。以上です。

野田委員長

修正は、了承いたしました。きちんと修正していただいているので意見・助言に入ります。

(1) 自分の将来を描ける力の育成、ここは最後の「いただきたい。」を「ください。」にしてください。

(2) 豊かな心を育む教育の推進ですが、道徳教育のあたりの括弧を全文消していただきて置き換えたいと思います。「他者に認められる主体的な活動を促す、教員の姿勢が児童生徒からの信頼につながっています。」という文章だけにしてください。2つ目、「考え・議論する道徳」の研究について、各学校での個々の事業づくりに生かされるよう、さらに展開を進めてください。

(3) 開発的生徒指導の推進については、「めざす指標や成果指標の数値より」という部分は取ってください。「自尊感情の高まりは」からスタートして、3行目の終わりのほうの「開発的生徒指導の積極的な見直しを進めてください。」そこで終わりにしてください。気持ちは、「新たな展開に期待します。」ですが書く文章としては「進めてください。」してください。

(4) いじめ防止への取組の推進は、「いじめの積極的な認知に努め」の前に「引き続き」と入れてください。「引き続き、いじめの積極的認知に努め、未然防止や、重大事態への進展の防止へと繋げてください。」してください。

(5) 人権尊重の教育の推進については、最後の「いただきたい。」を「ください。」にしていただくだけでいいです。

(6) 読書活動の推進については、2つとも文末が「いただきたい。」になっていますので「ください。」してください。私からは、以上です。

新谷副委員長

私のほうは、些末なところですが、キャリア・パスポートとコミュニティ・ス

クールの表記にぶれがありますので、統一をしていただきたい。文科省表記は、キャリア・パスポート、コミュニティ・スクールのどちらも中黒が入りますが、私が書くものは大体、中黒なしでするのでどちらでも結構だと思いますが、表記のぶれがありますので、統一いただいたほうがいいと思います。以上です。

野田委員長

これは、どちらなのでしょうか。

新谷副委員長

文科省は、全部中黒で表記していますが、私は中黒をあまり使うことはないです。

野田委員長

最近は、あまり付いていないですね。

新谷副委員長

あまり中黒が付いていたら、見た目がよろしくないと思います。

野田委員長

これはこのままでいいということですね。

新谷副委員長

いいと思いますが、行政文書であれば中黒にするのか、そのへんはお任せしたいと思います。

野田委員長

教育委員会の文章は、どちらなのでしょうか。

太田学校教育課長

確認して対応してまいります。

野田委員長

小・中学校も中黒をつけたほうがいいです。それでは、あと1つ少し気になつたところが、(6) 読書活動の推進のところですが、目標は高いほうがいいと思うので 100 パーセントでいいと思いますが、図書館の機能の向上のあたりに蔵書数を増やしていくという文章がいると思いますので、先ほど(6) 読書活動の

推進で、文末を「ください。」にしてくださいと申し上げましたが、「読書の習慣をつける工夫や活用しやすい図書館の工夫」の後に、「・多様な蔵書の増加など」と追加してください。多様というのは、電子図書なども含めることができますので、「多様な蔵書の増加など」を追加してください。

野田委員長

それでは、施策の方向4、健やかな体を育てる教育の推進についてお願ひいたします。

太田学校教育課長

はい、学校教育課の太田でございます。(1) 体力づくりと健やかな生活習慣の確立に向けた取組ですが、57ページをご覧ください。令和6年度の実施を踏まえた課題と今後の目標につきまして、「眠育ガイドリーフレット」を作成し全児童・生徒に配布して、正しい脳のリズムを作るための睡眠の大切さや生活習慣の在り方について記載をしておりましたが啓発をするという点に関して、「意識向上のため」ということを強調して追記をしております。

次に、(2) 食育の推進についてです。60ページの令和6年度実施を踏まえた課題と今後の目標の下部になりますが、「栄養教諭加配の」個別的な相談支援の取組と記載しておりましたが、こちらにつきましては、「栄養教諭加配による」という表現に変えさせていただいております。以上が修正点でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、98ページをご覧ください。施策の方向4、健やかな体を育てる教育の推進について、ご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

(1) 体力づくりと健やかな生活習慣の確立に向けた取組について。子どもたちが正しい生活習慣への意識を高めるために、作成された「眠育ガイドリーフレット」の活用効果に期待します。

次に、(2) 食育の推進について。1点目、「学校給食残渣率」は、すでに令和7年度の目標値に達することができているため、良いと感じます。

2点目、朝食喫食率は全国と比べて低い数値になっているため、地域や企業と連携したり、他の地域の先進事例を取り入れたりするなど、取組を推進していただきたい。以上です。

野田委員長

それでは、私のほうからですが、修正はしていただいているので結構です。98ページの(1) 体力づくりですが、「活用効果に期待します。」は少し変なので、

「今後の活用に期待します。」にしてください。

そして、食育のほうは、「給食残査率は、すでに令和7年度の目標値に達しています。」でいいと思います。「良いと感じます。」はいらないと思います。「達しています。」のほうが頑張っていますということでいいと思います。

それから、食育の2点目は、「取組を推進していただきたい。」を「引き続き、取組を推進してください。」にしてください。大体こういうふうにしていきますと書かれていることを受けて、意見・助言として書いているので、「引き続き、取組を推進してください。」にしてください。私からは、以上です。

新谷副委員長

私の方からは、特に付け足しはございません。

野田委員長

はい。それでは、次に施策の方向5、教職員の子どもとの関わりの充実についてお願いいたします。

岡田学校教育課参事

(1) 教職員の人材育成について修正点を説明させていただきます。こちら大きく3点修正をいたしました。まず、64ページの活動・成果概要の①ですが、こちらも数値がしっかりと向上しているという言葉をいただいております。その取組として、例えば先進校視察や教育フォーラム等簡単でもいいのでどうすることをしてどこに行ったのか等追記してくださいということでしたので、追記をさせていただいております。

続けて②ですが、「門真市教職員のキャリアステージにおける人材育成指標」の見直しのところですが、どのように見直しをしたのかというご指摘いただきましたので、具体的に大阪府教員等育成指標に合わせ市主催研修の種類や回数を再整理したこと、内容等も精査したことを追記させていただいております。

ページをめくっていただいて65ページの最後です。課題と今後の目標の①社会の変化に対応した教職員の資質向上のところですが、こちらも令和6年度の数値がしっかりと向上をしているので令和6年度に効果があったものを令和7年度も引き続き実施をしていきますという旨、記載してくださいというご助言をいただきましたので、追記をさせていただいております。以上です。

向井学校教育課参事

学校教育の向井です。(2)の職場におけるハラスメントの防止につきましてご説明させていただきます。ここは、修正はしていないのですがご説明をさせて

いただきます。67 ページをご覧ください。施策全体の目立つ指標では、令和7 年度時点の目標値の公的回答が 100 パーセントに設定されているのですが、現状の実績はなかなか今年度の達成が難しいという状況ですので、次のページの 68 ページの中段の成果指標の目標は、ここは年度で変更可能で実態に即した目標値にしてはどうかというような検討も行ってくださいというご指摘をいただきました。内部のほうでも検討はさせていただきましたが、やはり 67 ページの目指す指標と 68 ページの成果指標の評価項目が全く同じ内容ということで、目標値だけが異なってしまうのは、どうしても違和感を覚える部分があり、担当課としては 68 ページの成果指標の目標値と施策全体のめざす指標と一致した 100 パーセントのままにさせていただいております。併せて、担当課としては、この 100 パーセントを教職員全員が肯定的評価にするという状況は、今後も目標としてしっかりと持っていたいと思いますので、現状それに至っていない課題も踏まえながら、目標達成に向けてハラスメントの研修等といった窓口の役割を改めて検討していきたいと考えております。

野田委員長

はい。ありがとうございました。

事務局（姫路教育総務課係員）

ご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。99 ページをご覧ください。施策の方向 5、教職員の子どもとの関わりの充実について。

（1）教職員の人材育成について。1 点目、先進校視察や教育フォーラムについて、有効な取組であると思われる所以、実施後の効果に期待します。2 点目、地域に根差した教職員の育成のために、地域や保護者の方々と直接対話することができるコミュニティースクールへの参加を、管理職以外でも検討していただきたい。

次に、（2）職場におけるハラスメントの防止について。1 点目、教職員間でハラスメントを許さない雰囲気が醸成されていると思う教育の割合、「教育」ではなく「教員」ですね。教員の割合の目標値達成に向けて、ハラスメント研修の内容の再検討と相談窓口の役割の見直しについて検討していただきたい。2 点目、ハラスメントを相談しやすい環境づくりのために、健全な職場環境が保たれているかどうかについても意識していただきたい。以上です。

野田委員長

目標は高いほうがいいので、目標が 100 パーセントというのはいいとは思います。（1）教職員の人材育成のところですが、ここは特ないですが、「コミュ

ニティースクール」の「一」を「・」に修正してください。

(2) 職場におけるハラスメントの防止について、せっかく読んでいただいて申し訳ないですが、2行目の割合のアンケート項目を書いている部分ですが、ハラスメント研修の内容を消していただいて、「ハラスメント研修の内容の再検討と相談窓口の見直しをさらに進めてください。」にしてください。「検討」ではなく「見直し」を進めてください。2点目は、ハラスメント「の」にしてください。「ハラスメントの相談がしやすい」に修正してください。以上です。

新谷副委員長

今、読んでいただいた内容に少し加えるかたちですが、99 ページの(2)、「目標値達成に向けて」の後に、「そう思わないと回答した要因の検証をし」と入れていただいて、あとはそのままです。100 パーセントに近付くためにはそこが必要かなと思います。もう 1 回言います。「目標値達成に向けて、「そう思わない」と回答した要因を検証し、ハラスメント研修の内容の再検討と相談窓口の役割の見直しを進めていただきたい。」

野田委員長

それでは、「項目の教員の割合の」までは取るということですか。

新谷副委員長

それは、そのまま入れていても大丈夫です。

野田委員長

入っていたほうがいいですか。「目標達成に」とくるので、そのまでいきまですか。それを入れると、内容的には 2 つ目は必要ないですね。

新谷副委員長

そうですね。

野田委員長

内容的には、同じように感じますので、2 つ目の黒点は消してください。1 つ目だけで大丈夫です。あまり同じような文章がないほうがいいと思います。

それでは、施策の方向 6、学校の組織力向上と開かれた学校づくりをお願いいたします。

太田学校教育課長

はい、学校教育課の太田です。（1）学校組織の改善と「チーム学校」としての組織力の強化については、修正等はございません。（2）教職員の働き方改革の推進、76 ページの令和6年度活動・成果概要の①についてですが、もともと部活動指導員が令和6年度、6名配置であった旨を記載しておりましたが、ここが令和5年度よりどのように増減しているのかというご指摘をいただきましたので、再度、確認をさせていただきましたところ、合計7名を配置しておりましたので修正をさせていただきました。正しくは、「部活動指導員を令和5年度より1名増加の合計7名配置し」と書いてございますのでお詫びして訂正いたします。以上でございます。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは99ページをご覧ください。施策の方向6、学校組織力向上と開かれた学校づくりについて。ご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

（1）学校組織の改善と「チーム学校」としての組織力の強化について。1点目、「学校は、教育方針を分かりやすく伝えていると思う保護者の割合」が低下傾向にあるため、学校の教育方針を伝える機会を増やし、且つ、わかりやすく伝える工夫をしていただきたい。2点目、学校運営協議会の人数の増加や構成委員の内訳についても、今後検討していただきたい。

（2）教職員の働き方改革の推進について。1点目、「学校全体で、「働き方改革」が推進されていると思う教職員の割合」の数値が上昇しており、良いと感じます。2点目、中学校での教職員の時間外在校等時間を減らすために、課題に即した改革をさらに推進していただきたい。以上です。

野田委員長

ありがとうございます。それでは、1つ目の学校組織の改善のところですが、項目アンケートの内容が書いてあるほうがわかりやすいですが、文章がすごく長くなるので消していただいて、「学校の教育方針を伝える機会を増やし、且つ、わかりやすく伝える工夫をしてください。」にしてください。簡単に。次はいいです。

（2）教職員の働き方改革の推進ですが、ここも1個にしたほうがいいと思います。まず、「学校全体で」を取って、「働き方改革が推進されてきています。」小学校の数字が上がってきていますので、続けて、「中学校でも課題に即した改革をさらに推進してください。」にしてください。私のほうからは、以上です。

新谷副委員長

99ページ、（1）点の2つ目、学校運営協議会の人数の増加や内訳が踏み込み

過ぎているので、次のように修正していただきたいと思います。「保護者や地域の人が参画する熟議など、学校運営協議会の進め方について、今後も検討していただきたい。」もう一度申し上げます。「保護者や地域の人が参画する熟議など、学校運営協議会の進め方について、今後も検討していただきたい。」以上です。

永田教育総務課長補佐

熟議は、どういう漢字でしょうか。

新谷副委員長

熟議は、四字熟語の「熟」に議論の「議」です。

野田委員長

修正と追加をしていただきて研修の様子がよくわかるようになりました。

それでは、施策の方向6が終わりましたので、施策の方向7、安全・安心・快適な学びの場づくりについてお願ひいたします。

十河教育総務課長

はい。教育総務課の十河です。まず、(1)の学校施設の改善ですが、81ページの指標をご覧ください。前回の委員会におきまして、成果指標における令和6年度の数値が間違っているのではないかというご指摘を受けましたので、改めて確認したところ、実際、記載に誤りがございました。今回、修正させていただいております。修正後の数値といたしましては、令和6年度の小学校は67.3、中学校が59.5に修正させていただきました。以上です。

渡辺教育企画課長

続けて、(2)新たなつながりを創る学校づくりです。教育企画課の渡辺です。よろしくお願ひいたします。修正箇所ですが、まず、83ページのめざす指標について、令和7年度の目標の数字が計画に載せてあるものに修正をしていたということで、計画どおりの数字に戻させていただいております。

続きまして、主な取組の①地域の核となる学校づくりの推進の活動指標と、②小中一貫校(義務教育学校)の整備における活動指標の内容が全く同じにもかかわらず、数値が違うということで、中身の説明文を書かせていただきました。①については、「市域全体に関する検討の場の回数」、②については、「小中一貫校に関する検討の場」の数ということで、実際数を数えておりますので、その旨を活動指標の中に記載させていただいております。

続きまして、活動・成果概要について、「コミュニティ・スクール」というタ

イトルにして、中身を記載しておりましたが、タイトルについては記載された内容を表現したもののはうがいいというご指摘をいただきましたので、タイトルを修正しました。また、「縦のつながり」「横のつながり」という記載があるにも関わらず、「将来の自分とのつながり」が書かれていないというご指摘がありましたので、内容を少し「将来の自分とのつながり」に、つながるような形で書かせていただきました。最後に、「将来の自分とのつながり」というワードも記載をさせていただきました。修正内容については以上です。

事務局（姫路教育総務課係員）

それでは、99 ページをご覧ください。施策の方向 7、安全・安心・快適な学びの場づくりについて、ご意見・ご助言を読み上げさせていただきます。

（1）学校施設の改善について。体育館は災害時において避難所となることから、全校において体育館の空調設備の設置を早急に進めていただきたい。

（2）に新たなつながりを創る学校づくりについて。第四中学校区の「探求的な学び」は、社会に開かれた教育課程やコミュニティースクールの発展の視点からも良いものだと思われるため、継続していただきたい。

（3）児童生徒一人ひとりの課題に沿った支援について。スクールアドバイザーの役割は非常に重く、専門性の強化はますます重要となっています。これからも「チーム学校」を強化し、ニーズに応じた適切な対応と仕組みを継続していただきたい。

（4）子どもたちを事故や災害から守るための取組の充実について。「こども110 番の家」の拡大とともに、犯罪抑止の観点からも、適宜新しい旗の配布を継続していただきたい。

最後に、（5）学校外における子どもの学習支援の推進について。1 点目、「Kadoma 塾」では、学校外における子どもの学習の場として成果を上げています。さらなる指導方法の向上に努めていただきたい。2 点目、学ぶ意欲の向上のためにも、授業での学習、授業以外（塾等）での学習、家庭での学習のそれぞれの場面に応じた目標・役割の違いを、児童生徒に認識させる工夫を検討していただきたい。以上です。

野田委員長

まず、1 つ目の学校施設の改善ですが、（1）の体育館は災害時において避難所となることから、「全校において」ではなく、「全校の」にしてください。「全校の体育館の空調設備の設置を早急に進めてください。」にしてください。ないところもまだあると思いますので、「全校の」にしてください。

次に、新たなつながりを創る学校づくりですが、「第四中学校区の「探求的な

「学び」の事例は」と「事例は」を入れてください。事例は、社会に開かれた教育課程やコミュニティ・スクールの発展の視点からも「良いものだと思われる」という部分は取っていただいて、「継続してください。」にしてください。スクールアドバイザーのところも、その次の「こども 110 番の家」と「Kadoma 塾」も「していただきたい。」を「してください。」にしてください。

あと、最後の意味が通じにくいと思いますので、「役割や目標の違いを、児童生徒に認識させる工夫をしてください。」にしてください。

新谷副委員長

88 ページの令和 6 年度活動・成果概要②の第一段落ですが、「SSW が 6 人枠体制となり、一層の活用を推進しました。」となっていますが、この句点は、各戸の後に付けたほうがいいと思います。このままだと、この福祉の専門家の修飾節になってしまいますので、「しました。」のほうが、文意が通じると思います。以上です。

野田委員長

ありがとうございます。言い忘れていましたが、84 ページの（2）新たつながりを創る学校づくりの修正は、テーマも中身も変えていただいて、わかりやすくなっています。特に、「縦のつながり」「横のつながり」「将来の自分とのつながり」という部分は、市の基本計画の目標になっているので、こういう書き方で入れていただけてよかったです。以上です。

以上で、全ての項目が終わりましたので、全体を通しての意見について、事務局より朗読をお願いします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

それでは、全体についての意見を朗読させていただきます。資料の 100 ページをご覧ください。全体についての意見です。

確実な学力の定着に向けた、児童生徒の学力調査及び細やかな分析が実施されています。また、それらの分析を踏まえた取組の見直し、サポート、成果の共有等、事業改善の取組が連続性を持って展開されており、特に伴走チームの強化は効果的だと感じます。

個別最適な学習の推進に向けた環境整備が進められています。多様なニーズに応えるために、引き続き、子ども一人ひとりに合わせた、取りこぼしのない環境づくりに取り組んでいただきたい。

開発的生徒指導の見直しにより、新たなステージの生徒指導を開発していくだきたい。

コミュニティスクールの導入による、学校教育目標の共有、教育活動の評価及び地域と共同した取組の推進により、地域とつながる学校の実現に期待します。申し訳ございません。地域と協働した取組の、協働ですが漢字が協力の「協」と働くの「働」です。よろしくお願ひします。

学校図書館の利用しやすい環境づくりに期待します。

探求学習やコミュニティスクールをはじめとした新しい取組が開始されているため、それらの取組に対応できていない子どもに対する生徒指導、サポートをどのようにしていくかなど、今後の体制について検討していただきたい。

ＩＣＴ機器の活用について、学校現場における具体的な活用場面を設定し、改善点の発見に努めていただきたい。以上です。

野田委員長

私の発言が最初にきているので、私からまた修正させていただきます。1つ目ですが、「確実な学力の定着に向けた」を取ります。児童生徒の学力調査及び細やかな分析が実施されています。また、それらの分析を踏まえた「取組」ではなく、「授業の見直し」、サポート、成果の共有等、「授業改善」は取っていただき、成果の共有等の取組が連続性をもって展開されており、特に伴走チームの強化は、「効果的だと感じます。」をやめ、「効果的に機能しています。」にしてください。

2つ目、個別最適な学習の推進に向けた環境整備が進められています。多様なニーズに応えるために、の「に」を取ってください。応えるため、引き続き、子ども一人ひとりに合わせた、取りこぼしのない環境づくりに取り組んでください。ここは、「いただきたい。」を「ください。」に直すだけいいです。

3つ目の、「開発的生徒指導の見直しにより、新たなステージの生徒指導を開発研究していただきたい。」ですが、せっかく今までやってきましたので「先駆けて」という言葉を入れようと思います。「生徒指導を先駆けて、開発・研究していただきたい。」にしてください。

先ほど、「協働」の字で悩んでいただいたのですが、先ほどのコミュニティ・スクールの話も入ったので、これは取っていただいて結構です。全部、削除したいと思います。どうでしょうか。4つ目のところです。

新谷副委員長

そうですね。書いてあるので。あっても構わないとは思います。

野田委員長

コミュニティースクールの「一」を「・」にして、「協働」にしてください。

そして、「学校図書館の利用しやすい環境づくりを進めてください。」にしてください。

その次も、コミュニティ「・」スクールですね。最後が、ＩＣＴ教育の活用について。新谷先生、最後は、「いただきたい。」でよろしいでしょうか。

新谷副委員長

どちらでも大丈夫です。

野田委員長

私からは、以上です。

事務局（永田教育総務課長補佐）

コミュニティ・スクールの導入による、学校教育目標の共有のところは、文書自体は省くということでしょうか。

野田委員長

コミュニティ・スクールは、このままで、先ほどの「協働」の字を変えていただくのと、コミュニティ「・」スクールにしていただく、それだけでお願ひします。せっかく書いていただいているので入れていただくということでお願いします。

新谷副委員長

私のほうからは、付け足しをお願いします。一番下のＩＣＴの内容の下に、「多文化共生教育の推進について、日本語指導が必要な児童・生徒の進路保障につながるような教育体制の検討をしていただきたい。」と付け足してください。もう1回言います。「多文化共生教育の推進について、日本語指導が必要な児童・生徒の進路保障につながるような教育体制の検討を進めていただきたい。」四中校区に入っていると様々な子がいて、大変そうだと思いましたので。

野田委員長

支援体制ではないでしょうか。

新谷副委員長

教育体制じゃなくて支援体制にしてください。

野田委員長

はい。それでは、様々なご意見をありがとうございました。本日、いただいた意見を取り入れまして点検評価報告書を作成させていただきます。会議につきましては、本日が最後ですが、今後の報告書作成の流れを事務局よりお願いいいたします。

事務局（永田教育総務課長補佐）

今後の流れについてであります。まず、本日のご意見を事務局でまとめさせていただき、加筆・修正のうえ、点検・評価検討委員の皆様へ送付させていただきますので、ご確認をお願いいたします。

点検・評価検討委員の皆様より、ご確認いただけましたら事務局のほうで報告書を完成のうえ、答申とさせていただきます。

8月26日に教育委員会の定例会がございますので、こちらに議案として諮り、可決の運びとなれば9月の市議会に提出をさせていただきます。その後、点検・評価検討委員の皆様には、完成後、点検・評価報告書を送付させていただきます。

以上が、今後の流れでございますのでよろしくお願いします。

野田委員長

言い忘れていたことがありました。再開いたします。資料の用語解説ですが、報告書の中に伴走支援や伴走チームがかなり出てきていますが、知らない人はわかりにくいくらいの言葉だと思いますので、加えていただいてはどうかと思います。かなり効果上がっているみたいですので、しっかりと用語解説も入れていただきたいです。

事務局（永田教育総務課長補佐）

はい。ありがとうございます。用語解説のところに伴走チームを入れさせていただきます。

野田委員長

それでは、本日の案件は以上です。これにて門真市教育委員会点検・評価検討委員会を終了させていただきます。長時間にわたり、誠にありがとうございました。